

# 急性期病院

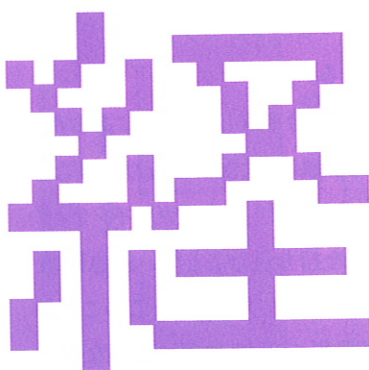
の医師不足が深刻化し、診療科や病棟だけでなく、病院自体の閉鎖などもマスコミで報道されている中、もはや病院経営者は女性医師の意識や考え、希望などを軽視したり、無視したりすることは許されなくなってきた。出産や育児のために病院勤務を辞める女性医師が後を絶たず、原因としての医師全般が置かれている劣悪な労働環境を現状のまま放置すれば、ますます医師不足に拍車がかかるからだ。

「東京都内の病院勤務の女性医師を対象としたアンケート調査では、女性医師の実質勤務時間は平均60時間/週に上ります。子育て中の女性医師でも45時間に達しており、子供のいない女性医師に至っては65時間にも上っているのです」

## 女性医師が病院経営を変える

こう指摘するのは、特定非営利活動法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」(ejnet[イージェイネット])の代表理事・瀧野敏子医師だ。

これまでは医師全体の中で女性医師が少数派であったことから、女性医師の離職や働き方



などはどちらかという個人の自己実現の問題として扱われ、重視されてこなかった。しかし、今や

研修医の3人に1人が女性医師という時代である。産休や育児休暇などを十分に取れないため、就労の継続を断念する、という現状に有効な手

立てを講じなければ、病院経営そのものが立ちゆかなくなっている。

「女性医師が病院勤務を続けていけるかどうかは、女性医師個人のレベルの問題ではありません。医師全般、特にワークライフバランスを無視した働き方のシワ寄せがきていた女性医師の働きやすい環境を整備することは、今や人材確保に直結し、まさに病院経営の根幹にかかわる死活問題へと変化してきているのです」

瀧野代表がこう言い切る程、女性医師のプレゼンスは高まっている。この問題をどうするか。さらに、これからを担う研修医や医学生などの若年層では、医師としての考え方や意識は以前に比べて変化しているのだろうか。ejnetが行った複数のアンケート調査やシンポジウムなどから浮上した女性医師の現状や悩み、また意識などを通して、これからの医療との関係を探

### 個人重視の若年層に

### 「医師教育」が不可欠

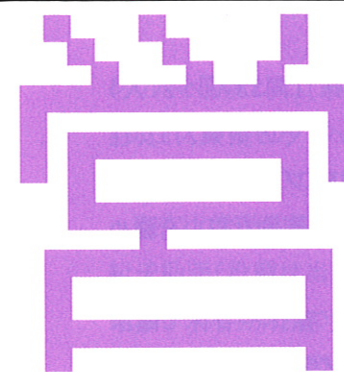
っていく。

#### 不安や悩みを抱える女性医師9割強

まず、女性医師の不安や問題点についてである。ejnetが2005年に京都府立医科大学・京都大学・滋賀医科大学との共催で「女子医学生のキャリア支援形成を考える」フォーラム(京滋フォーラム)を開催した際、女子医学生55人(全体60人参加)と女性医師40人(同49人)、合計95人に行ったアンケート調査の結果は、瀧野代表にとっても衝撃的なものだった。

『「女性医師としての将来の不安や悩み」を持つ女子医学生(『すごく感じる』58%、『時々感じる』38%)と、女性医師(『すごく感じる』19%、『時々感じる』72%)は、いずれも実に9割以上に上ったのです」

将来の不安や悩みの内訳のトップ3は、「家庭



と仕事の両立が困難」「産休・育休制度が整備されていない」「院内保育施設や緊急時の病児保育が未整備」だ。瀧野代表はこの点について以

下のように分析する。

「医師としての一定の能力とキャリアを積むには医学部卒業後7～8年を要します。しかし、ちょうどその頃、出産・育児の時期と重なる女性医師は、家庭と仕事を両立させる上で大きな困難に直面することになるからでしょう」

「子育て中で主に育児にかかわっている人は？」という質問に対して、「本人」(24人)や「パートナー」(27人)と回答した人が多く(複数回答)、「保育所・託児所」(19人)、「ベビーシッター」(10人)と答えた人も少なくなかった。一方、両親や祖父母などと一緒に住む人が減少している中で、両親に子供の育児を任せるのが難しくなっているためか、「両親」と回答した人は14人にとどまった。

また、「子育てしながら働く勤務形態の希望は？」という質問には、「病院の勤務医」や「大学の勤務医」「非常勤医師で家庭の両立」などが挙げられたが、ほかには「ひとまず産休・育休を取ってから考える」「医師以外の道」などの回答も寄せられ、子育てのために現場を離れることもうかがわせた。

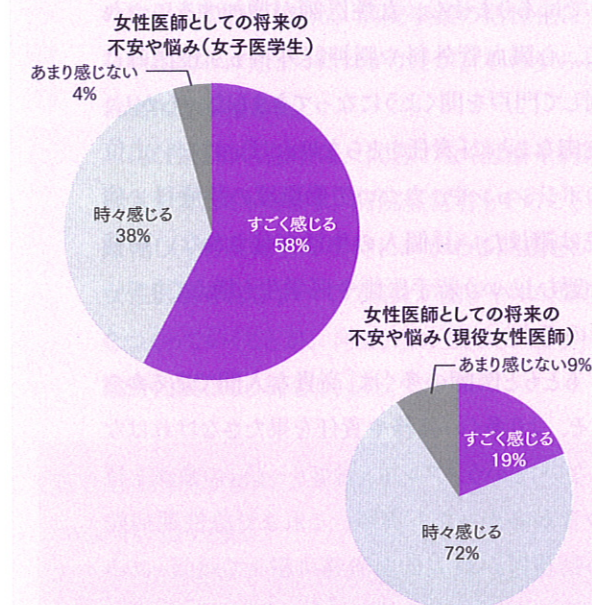
#### 若年層でノブレス・オブリージュの希薄化も

一方で、研修医や医学生を含めた若年層では、医師という職業に対する意識の変化も始まっているようだ。

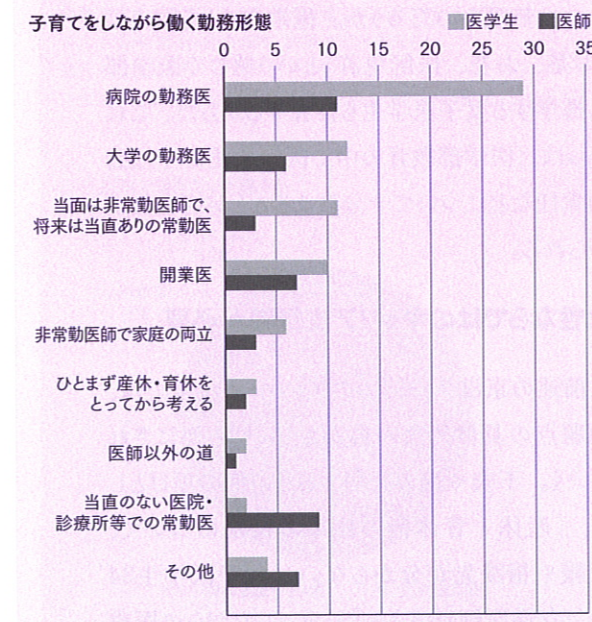
ejnetが06年に福島県立医科大学の学園祭で10代と20代の医学生、および研修医144人(女性6割、男性4割)を対象にア

ンケート調査を行った(13ページ)。興味深いのは、働く病院を決める際に重視する要素として、「病院が労働時間・産休など、仕事と生活のバランスに配慮していること」を挙げた人が36%と最も多かったことだ。特に「病院機能が充実しており、技能を磨くのに適していること」を挙げた人(33%)と同等であった点に注目す

#### 女性医師として働く上で将来の不安はありますか？



#### 子育てしながら働く形態の希望は？



2005年京滋フォーラム結果報告より